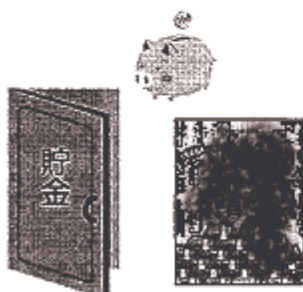


ぬかた便り

岡崎市立額田図書館
春号 No. 38
2016年3月発行



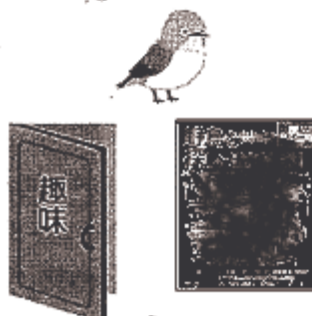
陽射しが和らぎ少しずつ春めいて来ました。冬の間は足元を見ていたのに、春は顔を上げて新しい一歩を踏み出したくなるような気分です。今回は「はじまる」「はじめる」が題名に入っている本を何冊かご紹介致します。春風に誘われて、見知らぬ世界への扉をノックしてみませんか。



『500円からはじめるらくらくお金を貯める本』(591 コ)

上野 やすみ/監修 成美堂出版

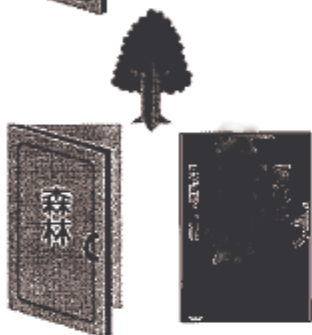
なりたい自分、かなえたい夢を描いた時の強い味方がお金。楽しく貯めて賢く使う方法をイラストつきでわかりやすく紹介。新社会人の方から、なかなか貯金できないとお困りの方にもお勧めです。



『野鳥を探しに出かけよう!』(488.1 ヤ)

大木 邦彦/著 技術評論社

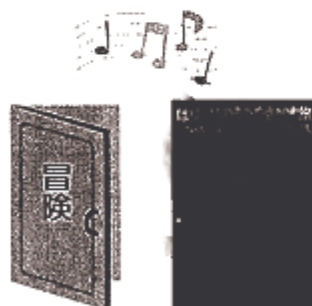
「観る」「撮る」「録る」「研究する」「創る」「楽しむ」のテーマごとに野鳥を楽しむための入門書。野鳥の世界の奥深さに好奇心をくすぐられること請け合い。この本と同じ「定年前から始める男の自由時間」シリーズには「鉄道模型」「お宝鑑定」などを含めて図書館に25冊蔵書があります。



『石油に頼らない 森から始める日本再生』(651.1 セ)

養老 孟司・他/編著 北海道新聞社

日本の未来と森づくり、山の現状と林業再生への道筋など、森を熟知した養老孟司氏、C.W.ニコル氏、湯浅勲氏ら有識者がその将来像を述べています。森林の多いこの地域にとって、身近で大切なテーマとなってくるでしょう。



『はじまりのうたをさがす旅』(913.6 カワ)

川端 裕人/著 文藝春秋

音楽を志しつつも営業マンとして生活していた単人は、ある日曾祖父の生きたオーストラリアでのサバイバルに巻き込まれます。アボリジニ文化の創造にまつわる曾祖父の歩んだ「歌の道」を辿りつつ単人が掴んだものは…。民族の垣根を超える音楽の本質を訪れる冒険小説です。